

平和村での 子どもたちとの日々



©Ralf Hallay



写真提供：ドイツ国際平和村

平和村リレートーク2017 ボランティア経験者に聞く

12月10日(日)

14:00~16:00

会場：福生市さくら会館
第3集会室

(JR牛浜駅東口 徒歩5分)

ドイツ・オーバーハウゼン市で、戦争や内戦で傷ついた子どもたちに手術や治療の機会を提供し、母国に返す活動を続けているドイツ国際平和村。その平和村の施設で子どもたちと過ごした経験を元ボランティアから聞きます。

家族のもとを離れ、一生懸命生きようとする子どもたちと日々を共にし、どんな思いを持ったのでしょうか。

問合せ・申込み

ドイツ平和村をサポートする会

電話：090-3801-7678 (秋山)

E-Mail：yoshi_t@tt.rim.or.jp (高崎)



お話しくださる方のプロフィール

仁平 杏 (にひら こう)

助産師学校卒業後、6年間病院に勤務。その後退職し、2016年3月にパイフワード倶楽部主催のドイツ国際平和村見学ツアーに参加。同年8月から1年間、平和村の「子どもたちの日常のお世話をする部署」にて活動。



坂口 平和 (さかぐち へいわ)

大学在学中にドイツ国際平和村の存在知り、休学を決意。2016年2月からの半期、ドイツ・ボン大学へ留学した後、8月から翌年1月までの半年間、平和村の「子どもたちの日常のお世話をする部署」(小さな子どもたち担当)にて活動。

現在は大学に復学し、来春卒業予定。



<主催団体の自己紹介>

「ドイツ平和村をサポートする会」は、小さな団体ですが、年数回自分たちで企画をし、学習会、講演会、チャリティイベントなどの事業を行っています。昨年度、福生市公民館との協働事業も行いました。

内戦や戦争で傷ついた子どもたちを支える「ドイツ国際平和村」への応援を目的に、当会は活動しています。同時に活動を通じて私たちの想いを発信し、多くの方が平和について考える機会を持ち、交流と出会いの場となる事業を大切にしています。そして、今できることに取組んでいただくきっかけを作り、ご協力くださる方々の温かい気持ちに支えられ、歩んできました。

ドイツ国際平和村の施設で生活をする子ども達は、肌の色の違い、言葉の違い、習慣の違いを乗り越え、助け合って生活しています。私たち大人も平和を願って、そんな子どもたちの力になりたいと応援を続けています。



ドイツ国際平和村って？

この地球上のさまざまな地域で、民族や政治対立による紛争が今も起きています。

その中で傷を負い、治療を受けることができず危機的な状況にある子どもたちに、手術や治療の機会を提供しているドイツのNGO団体です。ドイツ市民によって設立され、50年間その活動を続けています。

今年の7月8日には、50周年の記念式典が行われました。活動は会費と寄付によって支えられています。